

**2019年 12月期**

**第 1 四半期決算説明資料**



**ダイトロン株式会社**

**証券コード：7609**

# 連結決算概要について (業績結果および業績予想)



# 四半期業績推移

■ 売上高 **14,917百万円**

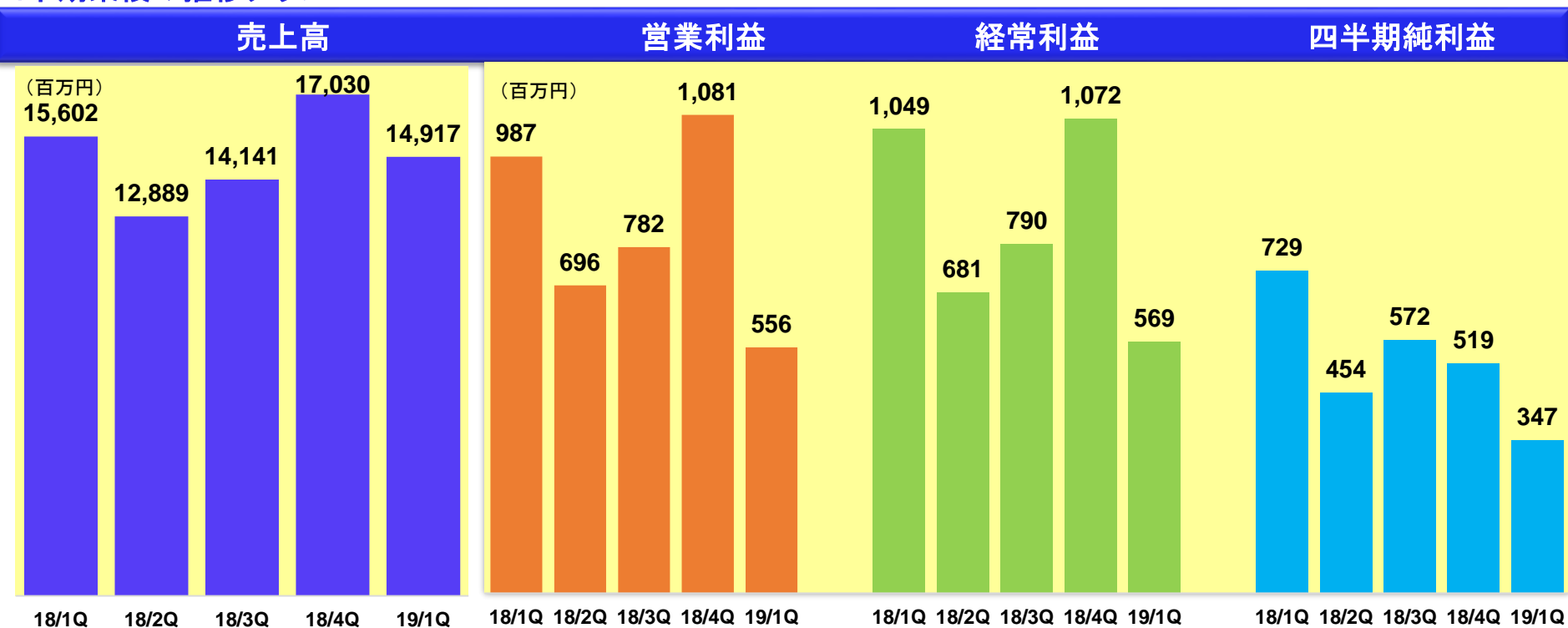
(前年同期比 95.6%)

■ 営業利益 **556百万円**  
(前年同期比 56.4%)

■ 経常利益 **569百万円**  
(前年同期比 54.2%)

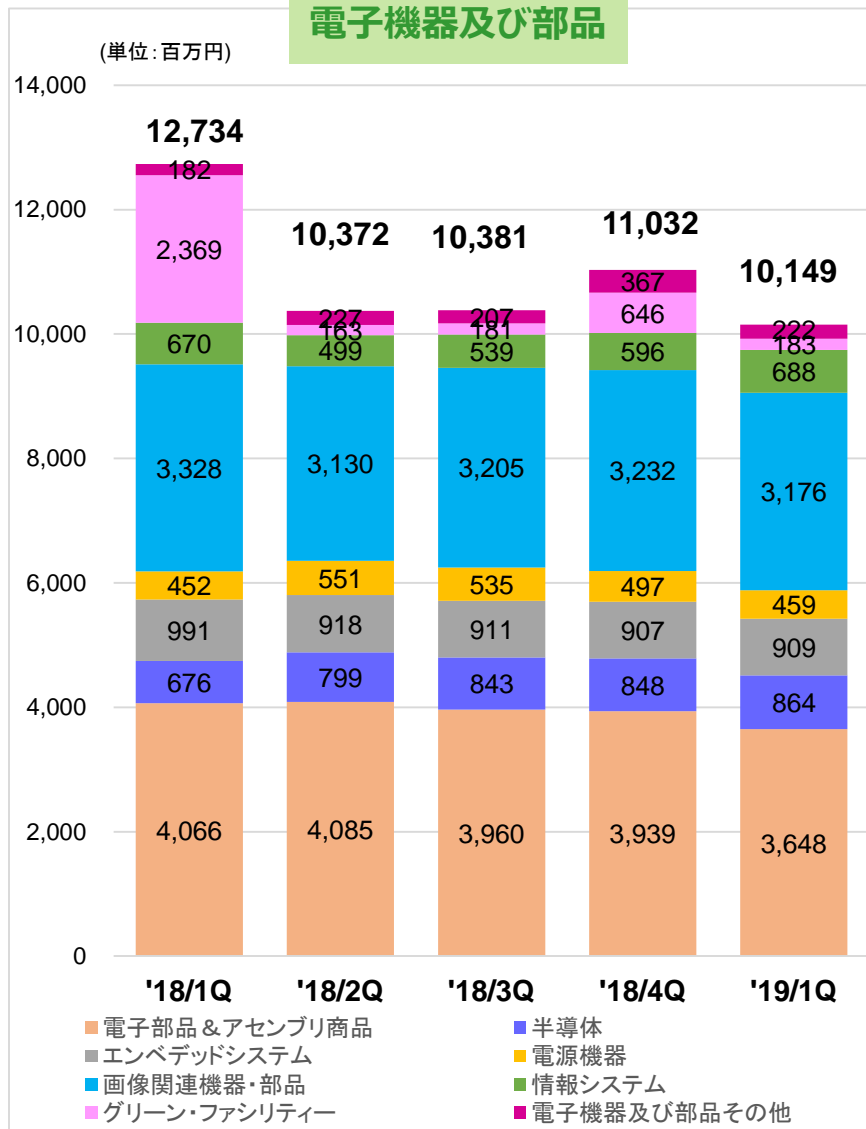
■ 四半期純利益 **347百万円**  
(前年同期比 47.6%)

四半期業績の推移グラフ

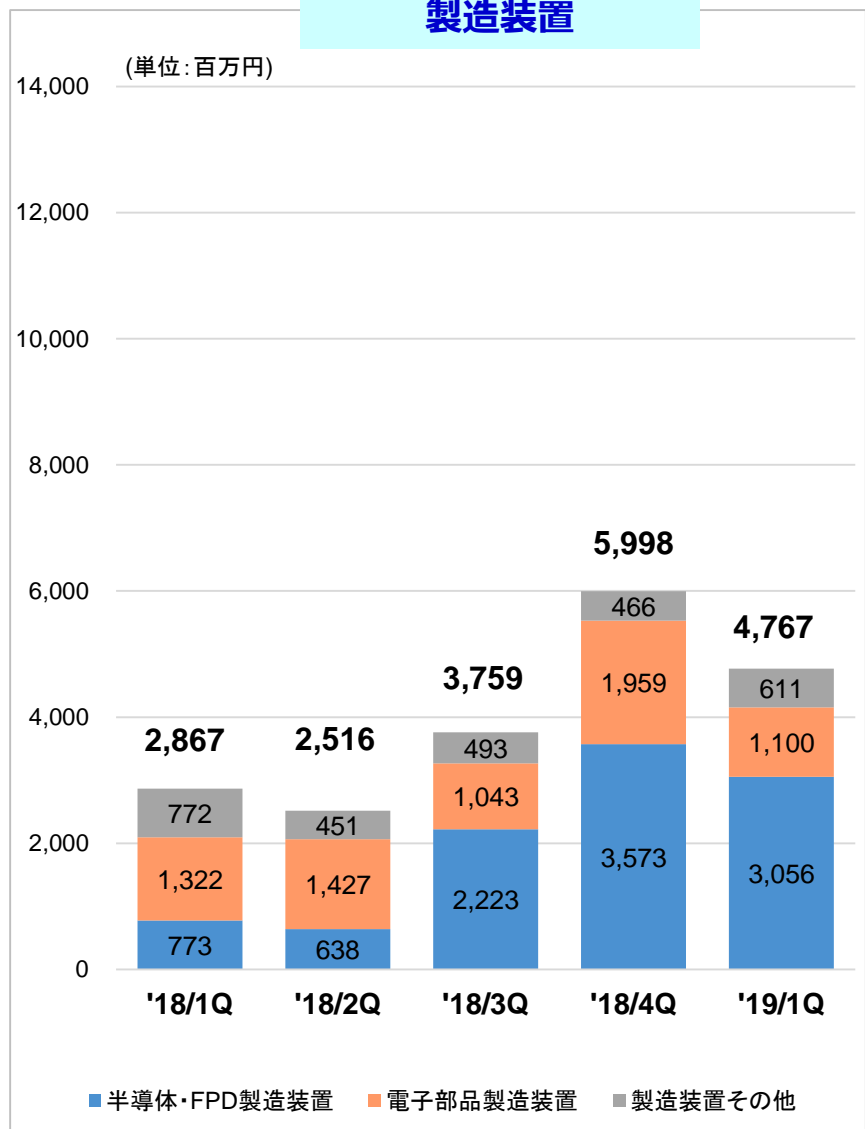


# 商品セグメント 四半期別業績推移

電子機器及び部品



製造装置

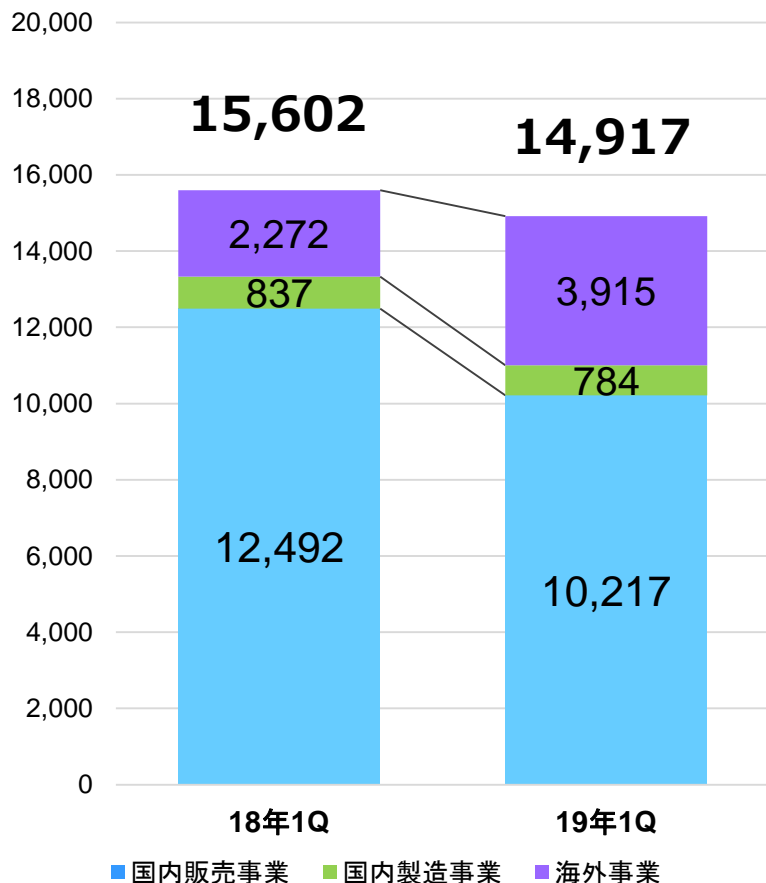


(百万円)	2018年12月期	2019年12月期 第1四半期	増減額
総 資 産	43,114	43,480	366
負 債 合 計	26,137	26,420	283
自 己 資 本	16,973	17,056	83
純 資 産	16,977	17,059	82
自己資本比率	39.4	39.2	△0.2pt
一株当たり純資産 ( 円 銭 )	1,530.94	1,538.35	7.41

# 報告セグメント別概況推移

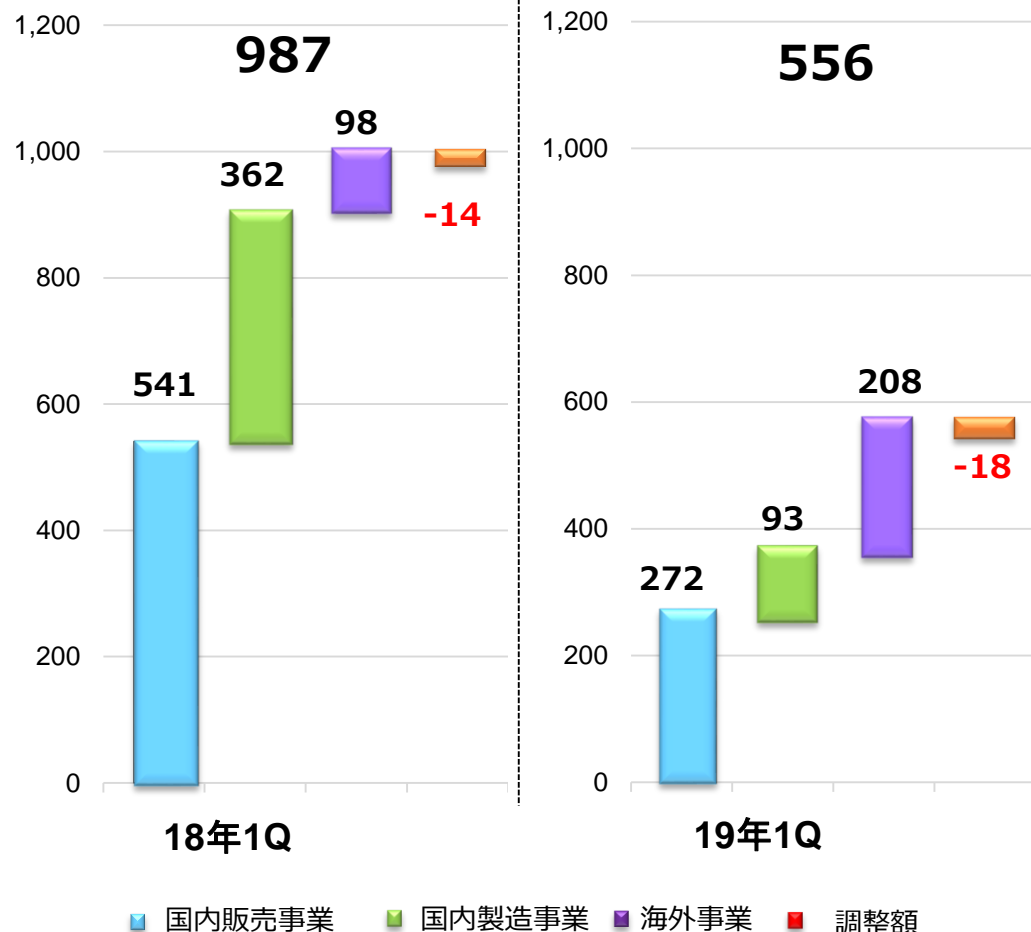
## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

(単位：百万円)



(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販管費及び一般管理費です。  
 2. 2019年12月期第1四半期連結会計期間より、従来「国内販売事業」セグメントに含まれておりました海外事業部と「海外子会社」セグメントを統合し、「海外事業」として報告セグメントの区分を変更しております。また、各セグメントの前年同期比較につきましては、前年同期の実績を変更後の報告セグメントの区分に組替えた数値で比較しております。

事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル製品比率	海外売上比率
電子機器・部品	電子部品 & アセンブリ商品	<b>24.5%</b> (前年同期26.1%)	<b>24.8%</b> (前年同期25.4%)	17.9% (前年同期33.2%)	北米 <b>2.8%</b> (前年同期2.5%)
	半導体	<b>5.8%</b> (前年同期4.3%)	<b>20.0%</b> (前年同期20.1%)		
	エンベデッドシステム	<b>6.1%</b> (前年同期6.4%)	<b>12.1%</b> (前年同期13.8%)		
	電源機器(グリーン・ファシリティー含む)	<b>4.3%</b> (前年同期18.1%)	<b>26.3%</b> (前年同期11.3%)		
	画像関連機器・部品	<b>21.3%</b> (前年同期21.3%)	<b>15.1%</b> (前年同期17.0%)		
	情報システム	<b>4.6%</b> (前年同期4.3%)	<b>25.5%</b> (前年同期26.7%)		
	電子機器及び部品のその他	<b>1.4%</b> (前年同期1.1%)	<b>-7.6%</b> (前年同期10.8%)		
製造装置	半導体・FPD製造装置	<b>20.5%</b> (前年同期5.0%)	<b>15.5%</b> (前年同期23.8%)	27.1% (前年同期15.9%)	
	電子部品製造装置	<b>7.4%</b> (前年同期8.5%)	<b>29.5%</b> (前年同期37.6%)		
	製造装置その他	<b>4.1%</b> (前年同期4.9%)	<b>15.9%</b> (前年同期15.0%)		
全体		<b>100.0%</b>	<b>19.4%</b> (前年同期20.4%)	<b>17.9%</b> (前年同期33.2%)	<b>27.1%</b> (前年同期15.9%)

は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

# 地域別 前年同期比較 売上高

(百万円)		2018年12月期 第1四半期	2019年12月期 第1四半期	増減額
国	内	<b>13,123</b>	<b>10,868</b>	<b>△2,255</b>
海	外	<b>2,478</b> (15.9%)	<b>4,049</b> (27.1%)	<b>1,571</b> (11.2pt)
	( ) 内は売上高比率			
	北 米	<b>397</b>	<b>418</b>	<b>21</b>
	欧 州	<b>356</b>	<b>314</b>	<b>△42</b>
	ア ジ ア	<b>1,723</b>	<b>3,316</b>	<b>1,593</b>
合	計	<b>15,602</b>	<b>14,917</b>	<b>△685</b>



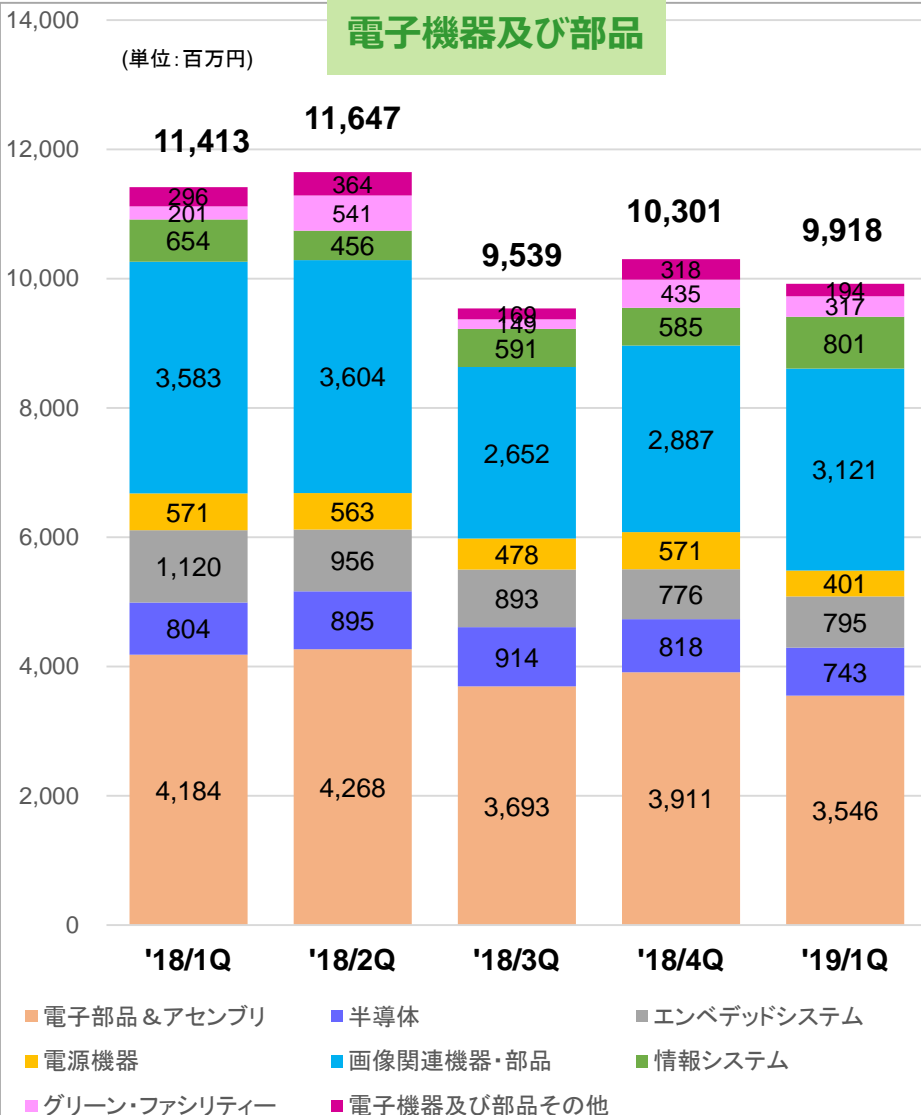
# 四半期別 受注高推移

(商品セグメント別)



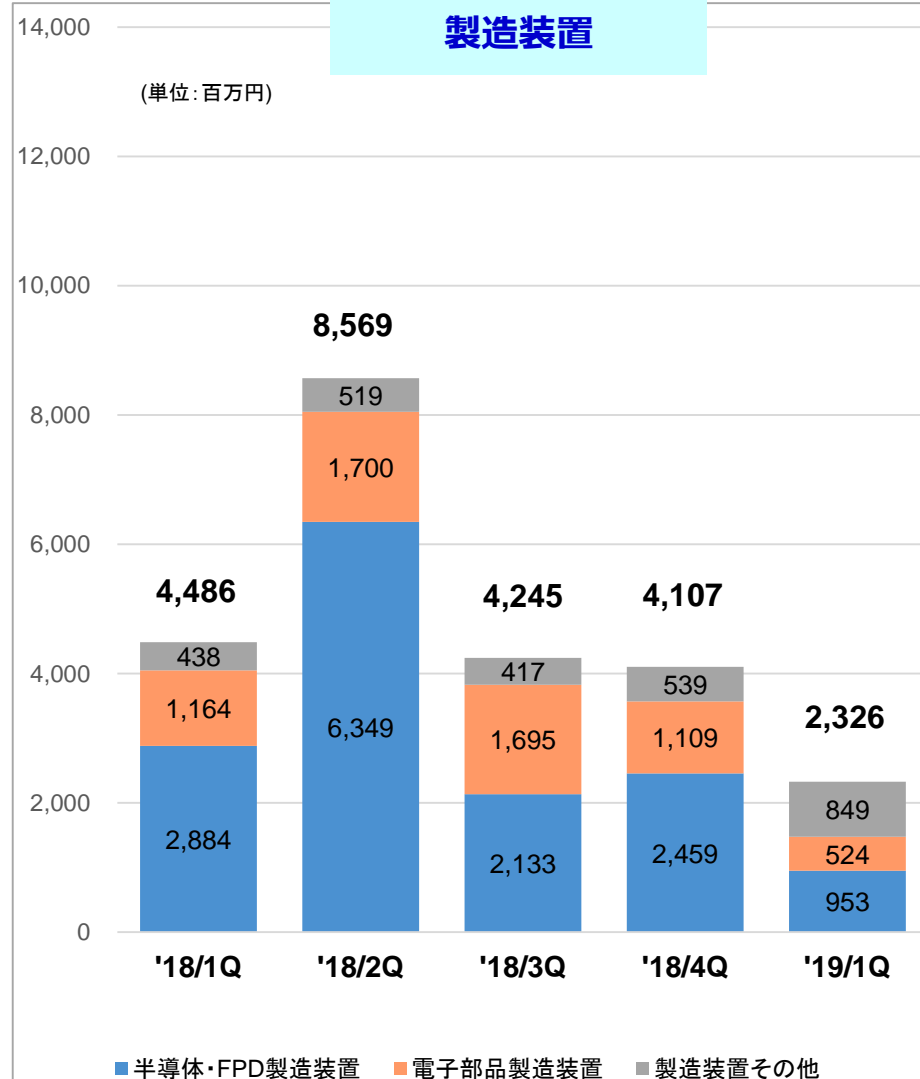
## 電子機器及び部品

(単位:百万円)



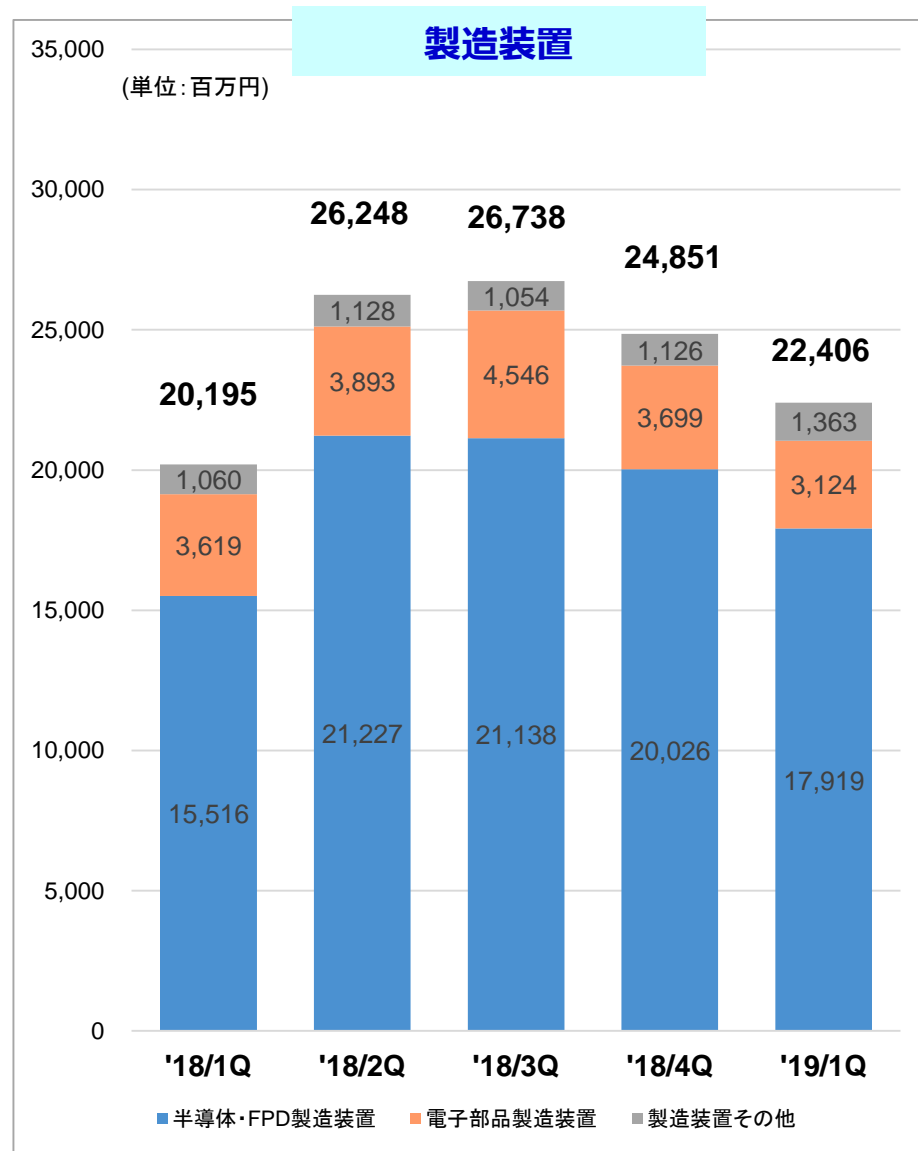
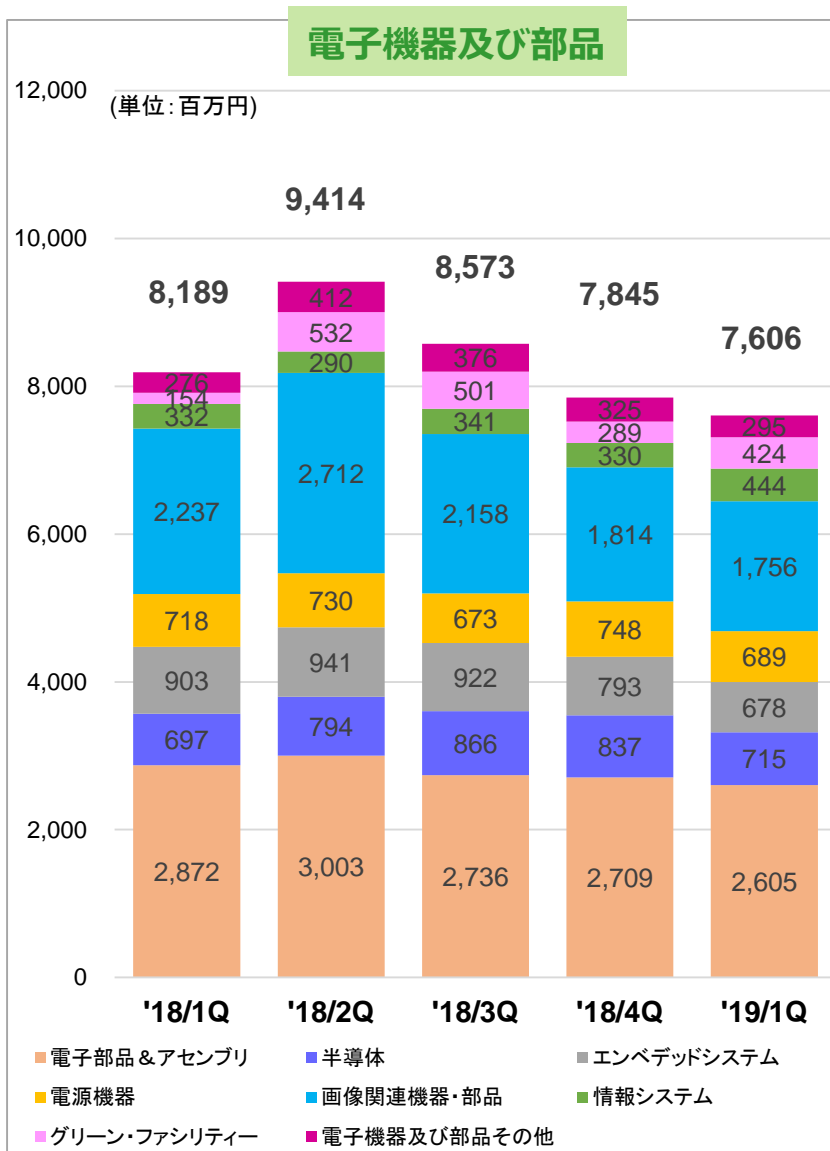
## 製造装置

(単位:百万円)



# 四半期別 受注残高推移

(商品セグメント別)



# 通期連結業績予想

■ **売上高** **62,500百万円**  
(前年比 **104.8%**)

■ **営業利益** **2,700百万円**  
(前年比 **76.1%**)

■ **経常利益** **2,750百万円**  
(前年比 **76.5%**)

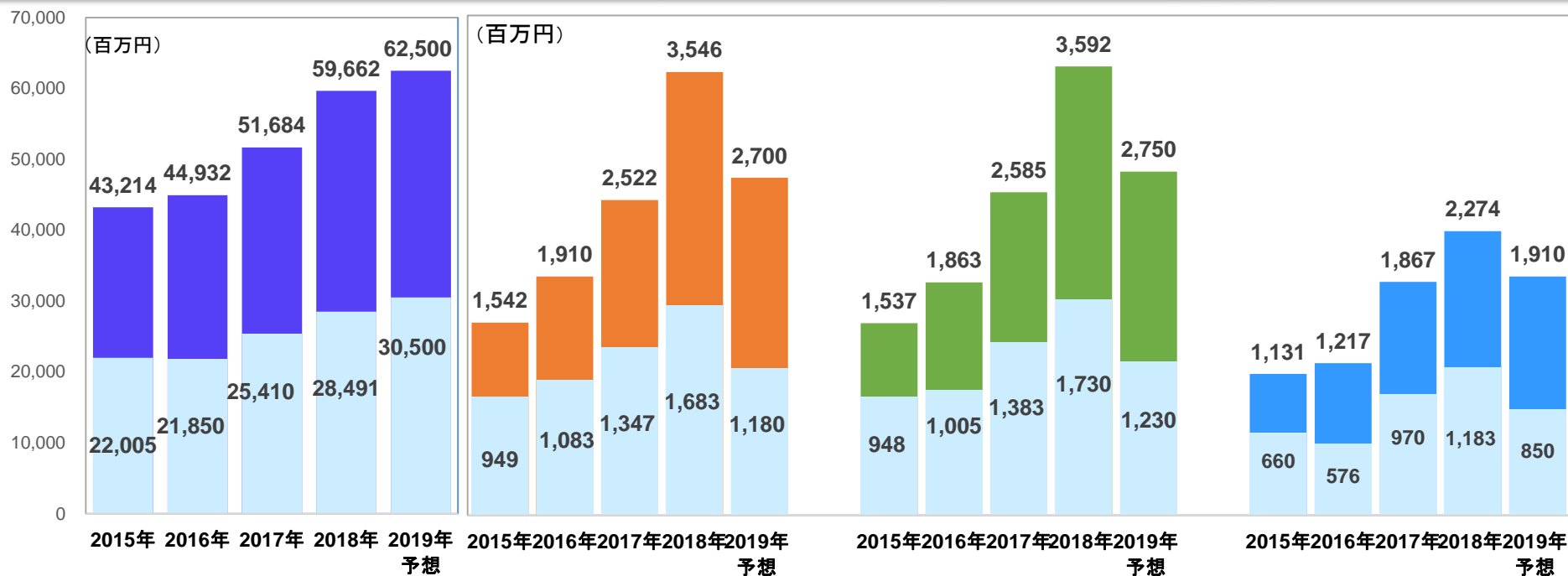
■ **当期純利益** **1,910百万円**  
(前年比 **84.0%**)

売上高

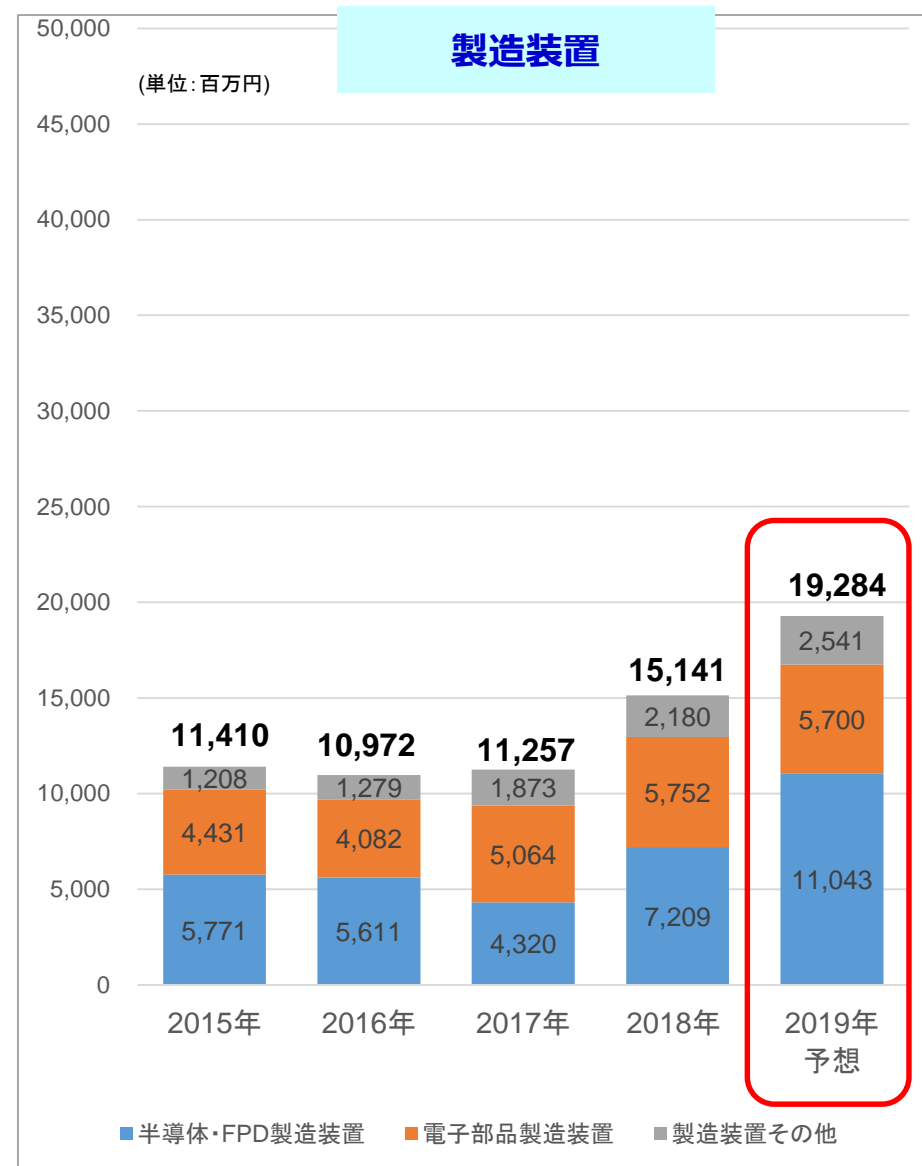
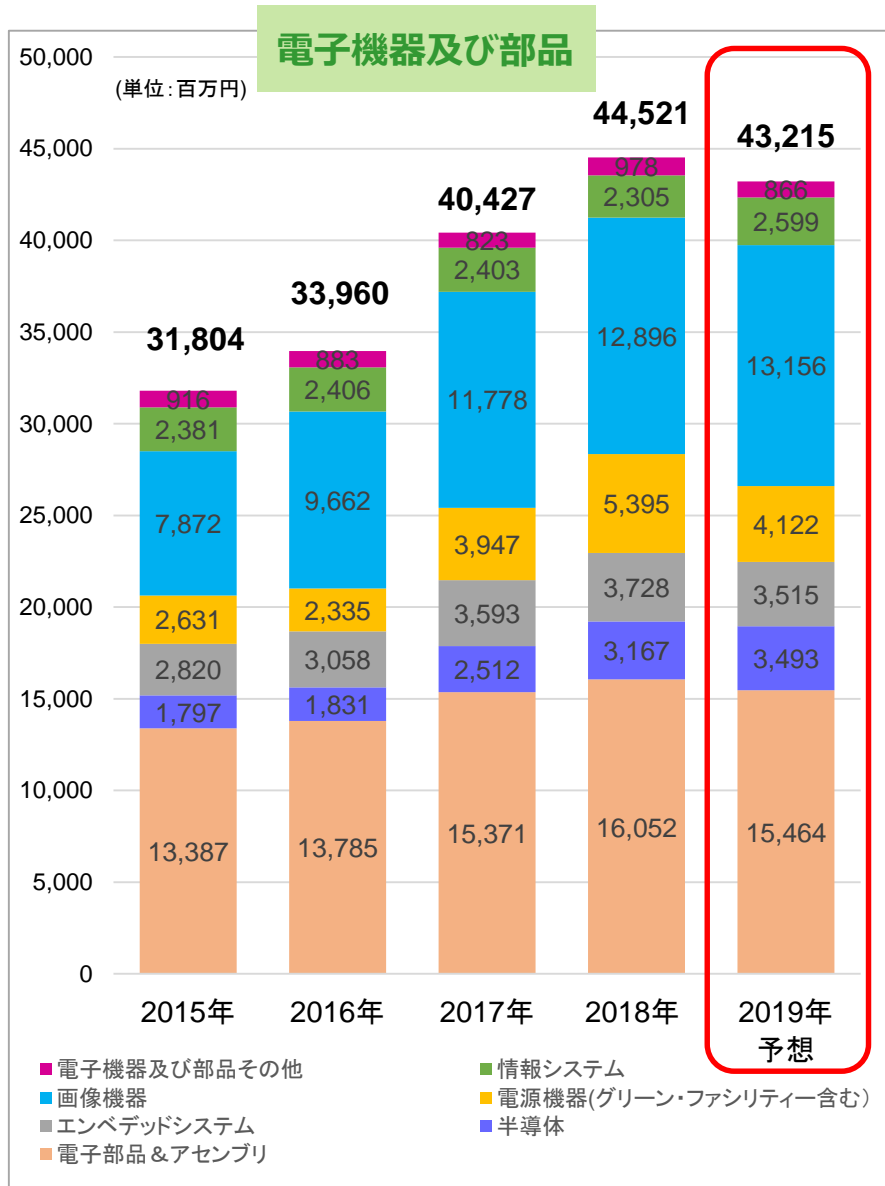
営業利益

経常利益

当期純利益



# 商品セグメント別業績推移・予想



# 配 当

	第2四半期末 (中間)	期 末	年間配当 (中間+期末)	当初予想	配当性向
2015年 12月期	0円	25円	25円	15円	24.5%
2016年 12月期	0円	30円	30円	20円	27.4%
2017年 12月期	15円	30円	45円	30円	26.6%
2018年 12月期	20円	35円	55円	50円	26.8%
2019年 12月期 予想	25円	35円	60円		34.8%

※ 2017年12月期より中間配当を実施

# 第9次中期経営計画(9M)



## 1 新グループ・ステートメント

# Creator for the **NEXT**

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、**新しい価値をクリエイトする**決意の表明

### 対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の**価値を創造し**、提供する」という意志を表明

### 社内的メッセージ

「常に次なる**事業を創造し**、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

**N : Network**

**E : Engineering**

**X : (Synergy)**

**T : Trading**

## 2 9Mスローガン

**「製販融合路線」により、**

**更なる成長を目指す**



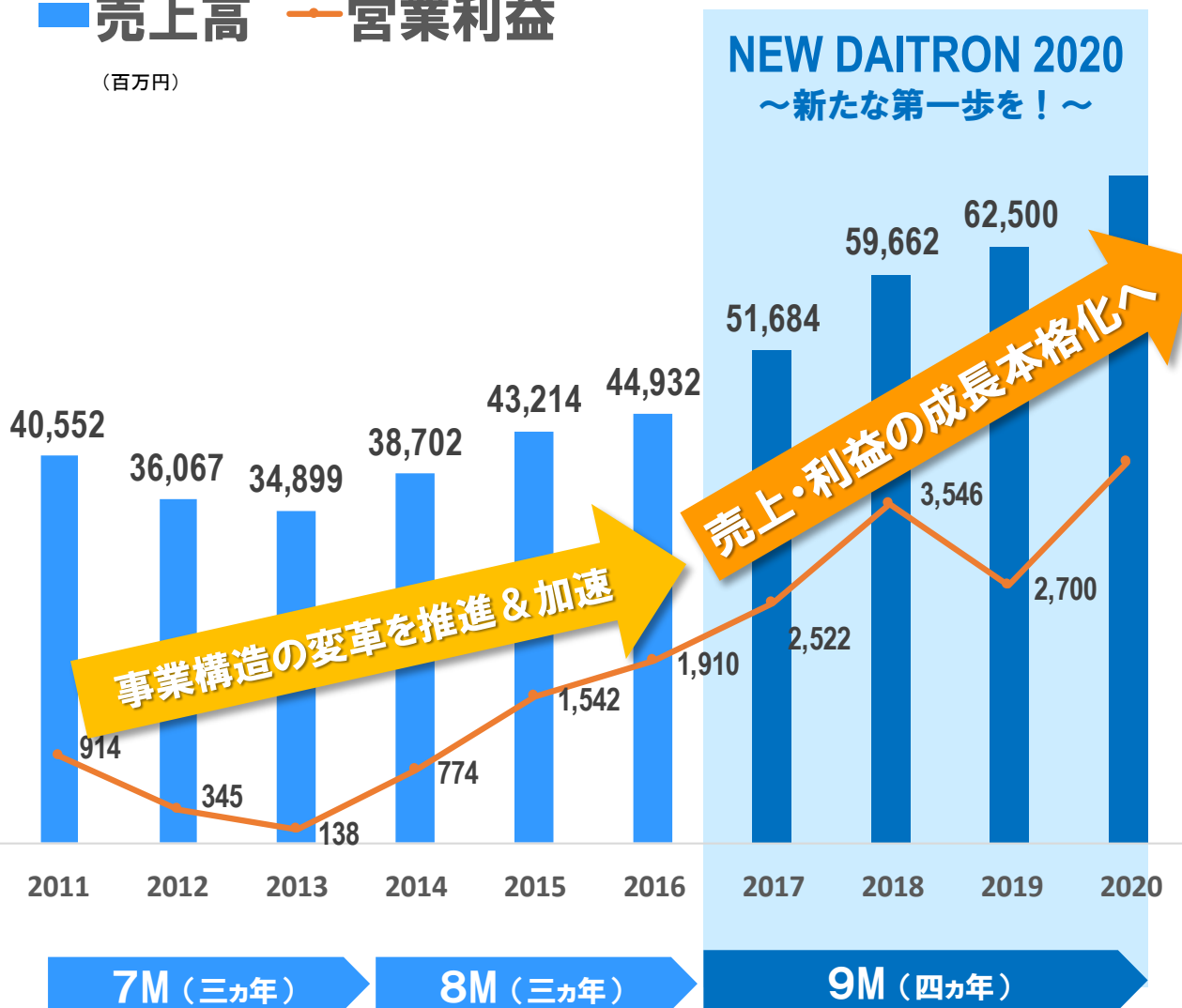
## 3 目指す姿

- **製販融合の、他に類を見ないユニークな企業**
  - 顧客から見た場合「頼もしく」、仕入先から見た場合「安心感」のある
  - 商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った
- **業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業**
- **社員にとって、働き甲斐があり、誇りに思える企業**
- **一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織**

# 1) 数値目標(連結)

■ 売上高    ▲ 営業利益

(百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益の持続的な  
成長により  
過去最高実績を越えて  
更に先の成長を目指す

【目標とする経営指標】

自己資本比率

50%

ROA

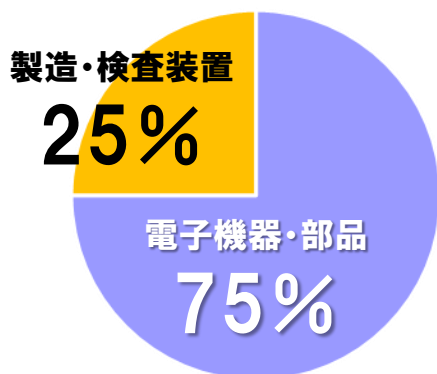
4%以上

ROE

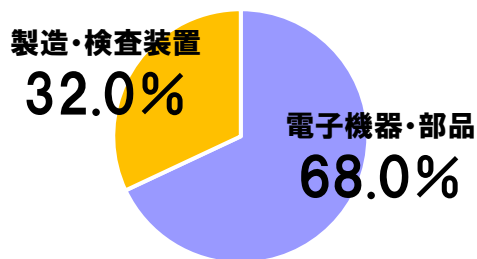
8%以上

## 部門別構成比 (売上高ベース)

【2020年 目標】

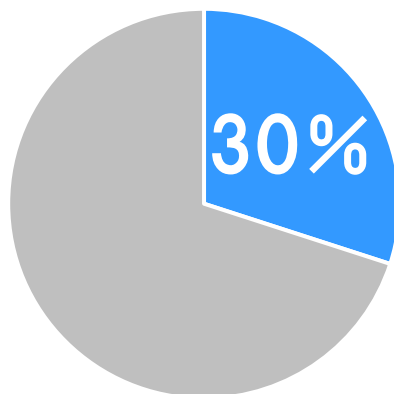


【2019年1Q実績】

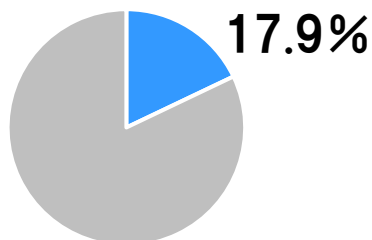


## オリジナル製品比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】

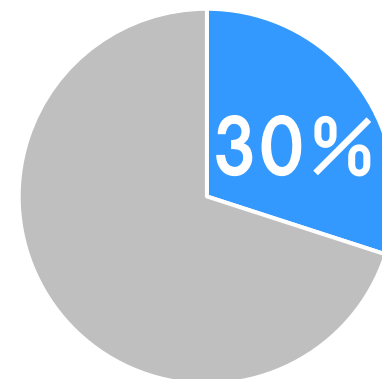


【2019年度1Q 実績】

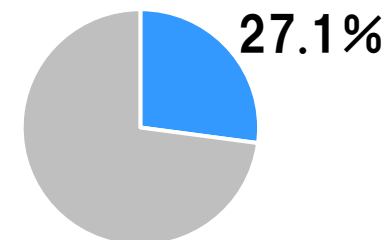


## 海外事業比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】



【2019年1Q 実績】



【基本方針】

**長期ビジョン(基本構想)の実現に向け  
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで  
3社統合効果(シナジー)の最大化を図る**



【基本戦略】

- ① **成長性重視の事業再構築を推進**
- ② **オリジナル製品開発の強化**
- ③ **海外ビジネス展開の強化**
- ④ **マーケティング力&営業力の向上**
- ⑤ **生産部門の統合強化**
- ⑥ **組織力&人材力の強化**

## 2019年(9M3年目)における各基本戦略のポイント ①

### 1. 成長性重視の事業再構築を推進

- (1)オートモーティブ →ADAS、EV関連での事業拡大
- (2)メディカル →製薬業界、消耗品関連の事業拡大
- (3)ロボティクス →市場拡大・グローバル化への対応

### 2. オリジナル製品開発の強化

- (1)独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- (2)新製品開発の強化(新分野)
- (3)仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

### 3. 海外ビジネス展開の強化

- (1)ネットワークの拡充
- (2)取扱いラインナップの充実

## 2019年(9M3年目)における各基本戦略のポイント ②

### 4. マーケティング力 & 営業力の向上

- (1)販売ネットワークの拡充
- (2)複合的(システム)販売により付加価値の向上を図る

### 5. 生産部門の統合強化

- (1)機器工場・特機工場の収益力アップ
- (2)グループ会社の生産機能の強化
- (3)中部第二工場の稼働

### 6. 組織力 & 人材力の強化

- (1)ジョブローテーション、キャリアパス制度により人材育成や活性化を図る
- (2)リスクマネジメントの強化
- (3)新人事制度の運営

成長が有望視される  
市場を開発



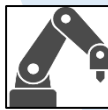
自動車



医療



インフラ



ロボット関連技術

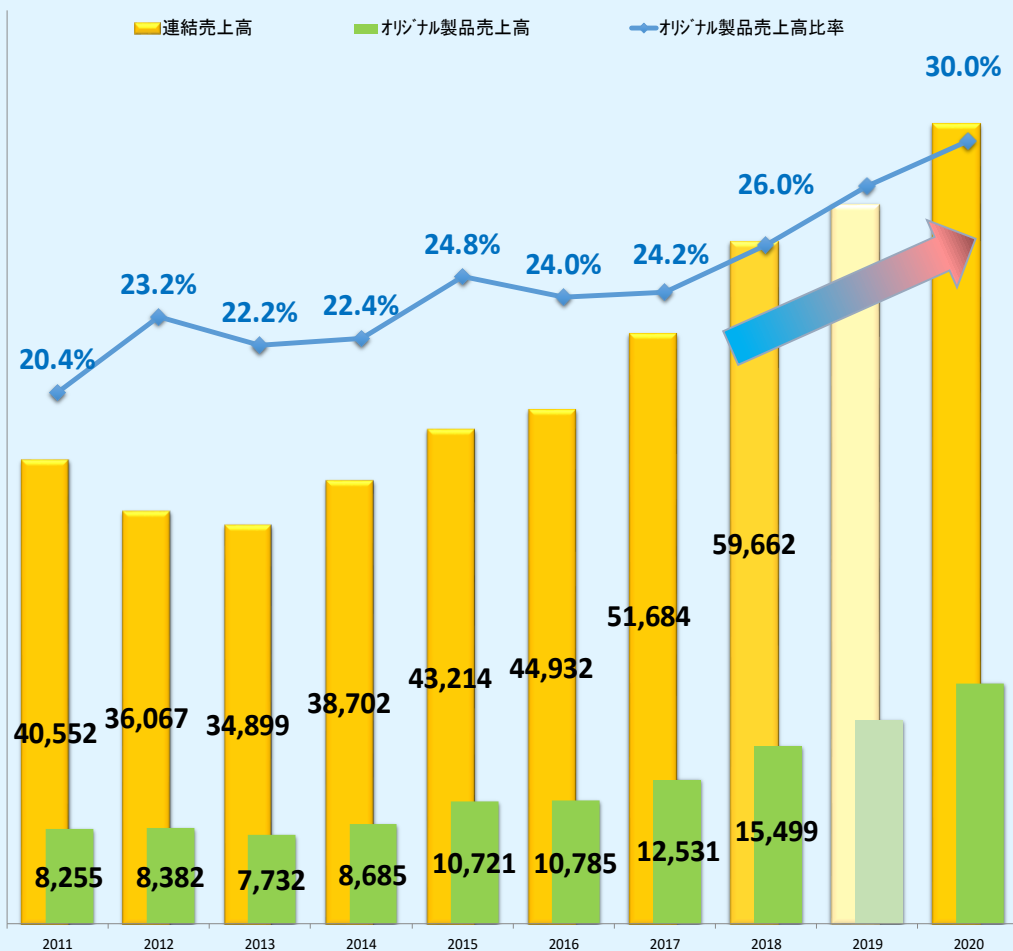


航空・宇宙

事業  
再構築  
を推進

安定的な  
成長基盤

単位(百万円)



**オリジナル製品比率**  
(売上高ベース)  
**2020年 30%を目指す**

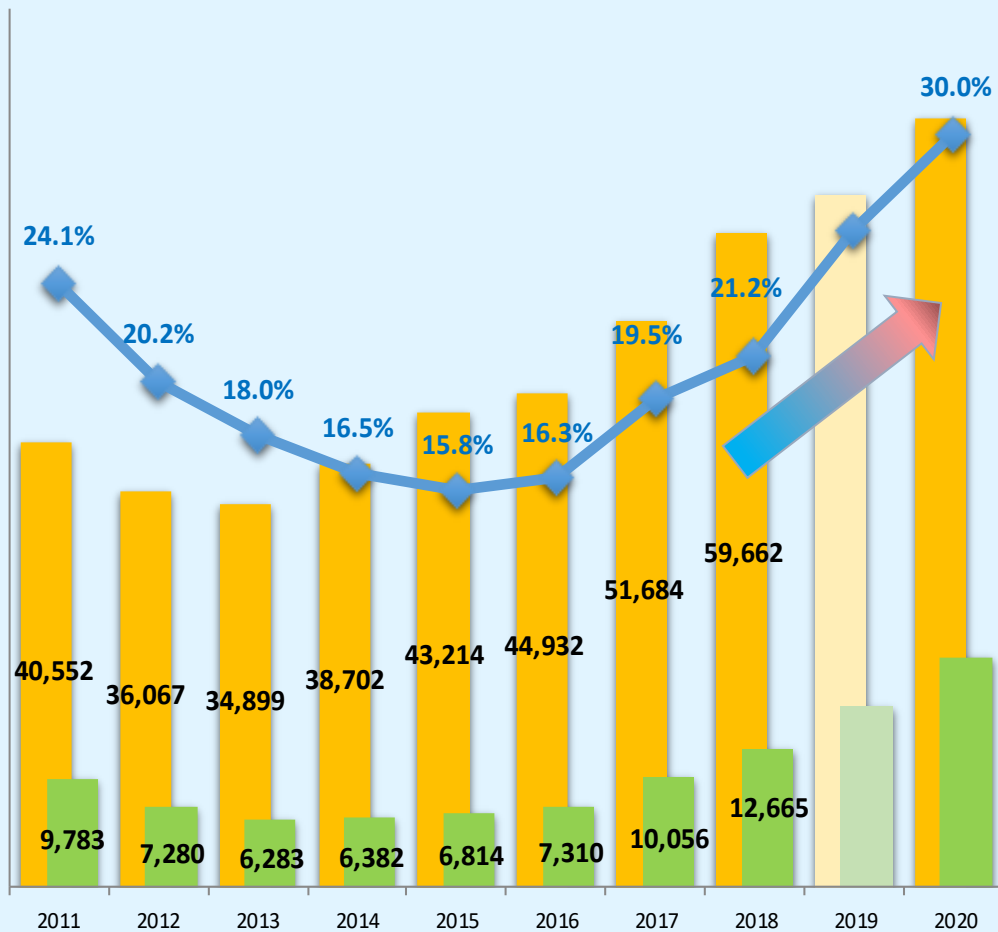
## 戦略ポイント

- ・ 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- ・ 新製品開発の強化（新分野）
- ・ 仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実



単位(百万円)

■ 連結売上高 ■ 海外売上高 — 海外売上高比率



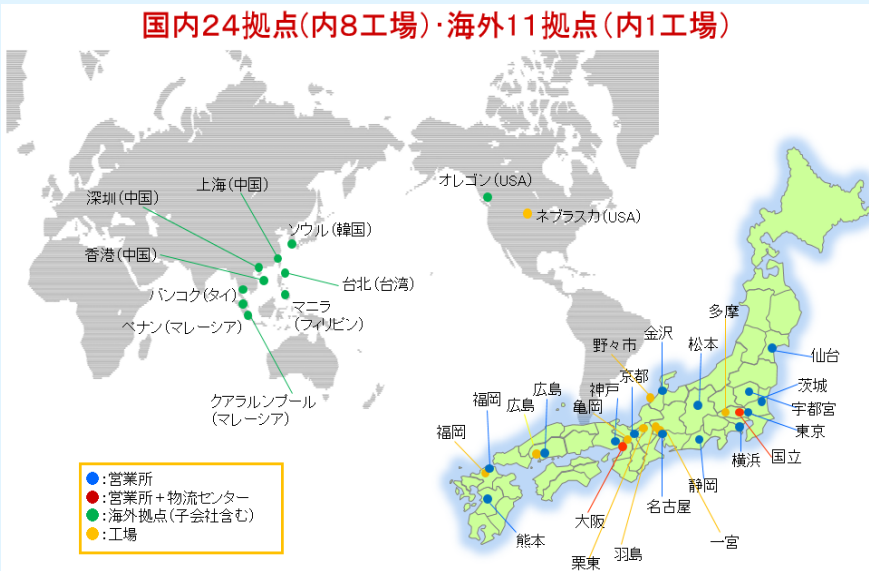
**海外売上高比率**  
(売上高ベース)  
**2020年 30%を目指す**

## 戦略ポイント

- ・ ローカル企業との取引拡大
- ・ 電子部品ビジネスの拡大
- ・ アウトーアウトビジネスの拡大
- ・ 地域独自のビジネス推進
- ・ ネットワークの拡充

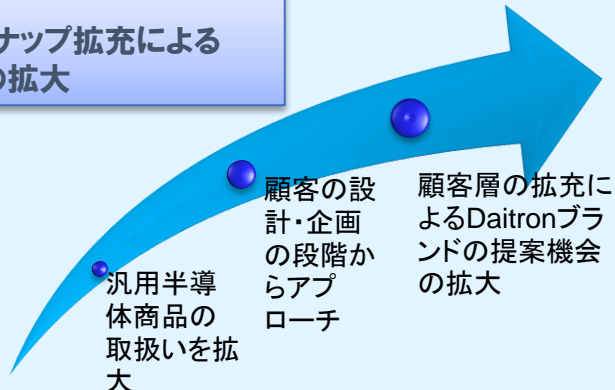
## 戦略ポイント 1 国内外における販売ネットワーク拡充

- 【国内】 ● 東北地方 仙台(2019年1月1日付新設)  
 ● 四国地方
- 【海外】 ● ベトナム ハノイ(2019年 開設準備中)  
 ● インド ● 欧州 など



## 戦略ポイント 2 既存市場におけるプレゼンス向上

商品ラインナップ拡充による提案機会の拡大



中部工場 (愛知県一宮市)

ダイロングループの  
基幹工場として新設

製造と開発の  
中核拠点へ



- (1) 中部第一工場 各事業(電源事業、航空機・車両用ハーネス事業、自動車関連事業)の生産拡大
- (2) 中部第二工場の竣工、稼働



中部第二工場外観

【第一工場】電子機器・部品関連生産体制

⇒ 2016年11月稼働

【第二工場】製造装置関連生産体制

⇒ 2019年2月竣工

# 技術で立つ会社へ

新生・ダイترونグループは、  
3社統合効果の最大化により、  
製販融合路線による  
エレクトロニクス業界の技術立社として、  
独自の進化を目指してまいります。

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをお含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営管理部 IR担当

TEL : 06-6399-5952

FAX : 06-6399-5962

e-mail : [info.ir@daitron.co.jp](mailto:info.ir@daitron.co.jp)